

コロナ対策のつもりが
過剰な反応になっていませんか？

気づこう、
変えよう、
そのひとこと。
STOP! コロナ差別

不安を差別に つなげちゃいけない。

配送業者の子どもは
学校に来ないで。

あなたの娘さん、
病院で働いている
んだよね。
悪いけどしばらくは
出社は控えて
ほしい。

～医療従事者やエッセンシャルワーカーに

感謝 や エール を～

医療従事者やその家族に対する、必要なサービスの提供拒否、行事への参加拒否などさまざまな問題のある事例が全国で起こっています。また、社会生活の維持に欠かせない業務に携わる人々（＝エッセンシャルワーカー）への差別の事例も多く発生しています。医療従事者やエッセンシャルワーカーに感謝の気持ちを持って接し、むしろエールを送りましょう。

～感染者とその家族に 思いやり を～

感染者や濃厚接触者を過剰に避けたり非難したりする差別や偏見が生まれています。中には、プライバシーなどの人権を侵害しかねない事例も見られます。ウイルスには気を付けても、誰でも感染する可能性があります。相手の立場に立って、正しい知識をもとに、感染者とその家族に思いやりを持って接しましょう。

ネットで見たけど、
〇〇くんのお父さん
感染したみたい。
いい迷惑だわ。

〇〇さん
職場復帰したけど
後遺症あるみたい。
まだうつるかも。
近寄らないように
しよう。

君、例の大学の
学生さんだったよね。
サークルが違っても、
バイト辞めてくれ
ないかな。

せきはぜんそくの
せいだって言うけど、
絶対コロナに
決まっている。
休めばいいのに。

～正しい情報を確認し、 冷静 な対応を～

特定の症状というだけで感染を決めつけてしまったり、あるいは、感染者と同じ大学、同じ地域の居住者というだけで差別・偏見の対象となることがあります。思い込みを避けて正しい情報を確認し、科学的根拠の乏しい過剰な反応は控え、冷静に行動するようにしましょう。

コロナ差別をしないことはコロナ対策のひとつです。

今、みんなが不安に包まれやすくなっています。そんな時だからこそ、自分の言葉や行動が差別や偏見につながっていないか、「誰か」のことではなく「自分のこと」として考えてみるのが大切です。



出雲市は、このコロナ禍で生まれた差別や偏見をなくし、だれもが住みやすい出雲市をめざすため、シトラスリボンプロジェクトを広める活動を行っています。

この活動は、「たとえウィルスに感染しても、だれもが地域で笑顔の暮らしを取り戻せる社会にしたい」という願いから、愛媛県で始まりました。愛媛県の特産の柑橘（シトラス）にちなみ、シトラス色のリボンを身につけて、思いやりの気持ちを表す活動です。

シトラスリボンの3つの輪は、「地域」「家庭」「職場・学校」を表しています。

リボンの結び方にはさまざまな結び方がありますが、出雲

ただいま、おかえりって言いあえるまでに

みんなで 広げよう、 シトラスリボン プロジェクト。



市では、「^{かない}叶結び」という結び方を推奨しています。この結び方は、表からは「口」の形、裏からは「十」の形に見えるので、それを合わせて「叶」結びと呼ばれています。

このコロナ禍においても、差別や偏見がなくなり、みんなが心から笑顔で暮らすことのできる出雲市になりますように。

また、この感染症が一日も早く終息し、もとの平穏無事な暮らしが戻りますように。

日頃から、人とのご縁を、大切にできた出雲だからこそ、それぞれの暮らしの場で、「ただいま」「おかえり」

そう心から笑顔で言いあえるひとの輪を、いっしょに広めませんか。

あなたも参加してみませんか？

シトラスリボンを身につけて、エールを送ろう！

シトラスリボンは、出雲市人権同和政策課のほか、この趣旨に賛同する市内の各団体の方々が作成し、配付を行っています。また、柑橘（＝シトラス）をイメージした色のリボンや紐を、ご自身で用意していただき、シトラスリボンを作ることができます。（作り方は、出雲市のホームページでも紹介しています。）

市では、シトラスリボンの作成、配付にご協力いただける団体・個人の方を募集しています。材料をご希望の方は、人権同和政策課までお問い合わせください。

出雲市シトラスリボン
プロジェクトホームページ▶



おたずね／人権同和政策課 ☎22-7506 FAX 22-7502